堺の町名の由来 樽野美千代

1	2020年	7月号	堺区	海山町
2	2020年	11月号	北区	浅香山、大豆塚町他
3	2021年	4月号	東区	登美丘町、大美野、草尾他
4	2021年	7月号	中区	八田寺町、土師町、津久野町他、
5	2021年	12月号	南区	ニュータウン編
6	2022年	4月号	南区	和田、釜室、富蔵、大森、泉田中、畑他
7	2022年	8月号	西区	鳳各町、浜寺船穂町、下田町他
8	2023年	1月号	堺区	堺市の拡大
9	2023年	5月号	堺区	南半町、南・北旅籠町、桜之町、柳の町、九間町他
10	2023年	9月号	堺区	神明町、宿屋町、材木町、櫛屋町、戎之町他
11	2024年	2月号	堺区	熊野町、湯屋町、中之町、少林寺町、寺地町他

堺の町名の由来

【樽野 美千代】

堺区

三宝村：「南島新田・山本新田・平田新田・弥三次郎新田・塩浜新田・若松新田・松屋新田の7ヶ村が合併して成立。」とあり「村名は、成立時人口を有していたのが、南島新田・山本新田・松屋新田の3か村のみで、ともに宝暦年間（1751～1763）に開発されたことから名づけられた」

海山町：開発者山本茂兵衛と海部屋甚兵衛の苗字から一字ずつとって海山という地名ができたのだと考えました。江戸時代に開かれた新田には開発者の名前がつけられることがあります。

南北半町（はんちょう）：元和のまち割りの時、縦の長さが他の町よりも短くなったので半町。

南北旅籠町（はたごちょう）：堺の町の南北の出入り口。北は旅籠、南は旅籠と書く（籠が正式の字で、籠は略字）。旅籠は、食事付きの旅人宿のこと。

桜之町、柳之町：それぞれ桜の木、柳の木がたくさん植わっていたことから。綾之町、錦之町、15世紀の応仁の乱を逃れて、京都から織物師が堺に移住、この地で綾織り錦織りを始めた。のちに京に戻った職人たちは、応仁の乱の西の陣がおかれたあたりに住み、西陣織と言われるようになった。

九間（くけんの）町：奈良時代、弘法大師が唐から帰国し、九間四方の堂（九間堂）を建立したことに由来。

神明町：奈良時代初めの創建といわれる神明神社（菅原神社に合祀）が当地にあった。

宿屋町：旅人の宿場町で、宿屋が多かったことに由来。町内には小西姓が多く、戦国時代のキリシタン大名小西行長の一族が居住したという。

材木町：戦国期から見える。江戸期の堺の中心産業のひとつ、材木商の集住地だった。

車之町：戦国期から見える町名。「車屋本」で知られる有名な能楽者、車屋道晰（どうせき）がこの地に住んでいたことに由来。

櫛屋町：堺名物、和泉櫛を扱う櫛問屋が多かったことに由来。

戎之町：戦国期から見える町名。当地にあった戎神社に由来。

熊野町（くまのちょう）：もとは湯屋（ゆや）町といい、湯屋（風呂屋）が多く並んでいたことから。明治5年、当地にあった熊野神社にちなみ「熊野」に改字。読みも次第に「くまの」に変わったが、小学校などに「ゆや」の読みが残っている。

市之町：戦国期からの町名。摂津と和泉の国境であった大小路筋に面し、堺の町の中心地で、いろいろな「市」が開かれたことに由来するようだ。

甲斐町（かいのちょう）：戦国期からの町名。神功皇后がこの地に「甲（かぶと）」を納めたことに由来するらしい。大商人が集住する金融街だった。

大町（おおちょう）：富裕者が多く住み、身代（しんたい＝財産）の「大なる町」というところから名づけられたようだ。

宿院町：室町期から見える町名。当地にある、住吉大社の頓宮（お旅所）を宿院といったことに由来。

中之町：戦国期からの町名。昔の堺の町は、大小路筋を境に北荘と南荘に行政区画が分かれていて、当地は南荘の中央に位置したことに由来。

少林寺町・寺地町：少林寺があること、また、寺地町はかつて少林寺の寺地（境内地）であったことに由来するようだ。

新在家町：南荘にあった本在家町に対し、ニュータウンという意味で名づけられたらしい。現在の新在家公園は、空襲前、つば市のお店があったところ。

北区

北区は JR 阪和線の東側です。(三国ヶ丘駅付近で堺区が阪和線の東側に広がっていますが、これは大正～昭和にあった榎町のなごりのようです。) 大阪メトロ御堂筋線は、昭和 62 年(1987)になかもずまで延伸してきて、北区内を走っています。明治 22 年(1889)4 月 1 日、町村制施行で、船堂・花田新田・庭井新田・萬屋新田・浅香山・大豆塚・奥村・北花田村の 8ヶ村が合併して五箇荘村になり昭和 13 年(1938)から堺市に。このうちの浅香山は、角川版の地名辞典によると、奈良時代からみえる地名で、摂津国住吉郡、浅鹿・朝香とも書き、「万葉集」には弓削皇子の歌として「夕さらば潮満ち来なむ住吉の浅鹿の浦に玉藻刈りてな」「行きて見てくれば恋しき浅香潟山越しに置きて寝ねかてぬかも」とあり、このあとも浅香の浦は、多くの歌に詠まれ、古くから「浦」として有名でした。聖徳太子の伝記を書いた本に、香木が当地の浜に打ち寄せられたことにちなんでつけられたとあるそうです。東浅香山町は、もとは堺市浅香山でしたが、西側の浅香山町と区別するため、東浅香山町と改称しました。大豆塚町は、大きな豆の塚と書いて「まめづか」と読みます。角川版の地名事典では、初見は永禄 12(1569)年 8 月の「今井宗久禁制案」(今井宗久の定めたきまり)で、さらに「天正 11 1588」年 8 月秀吉は今井宗久に当村のうち 157 石余を知行地として与えている。」「寺院に浄土真宗大派＝大谷派＝東本願寺派西願寺がある。」と書かれています。

また堺区に東雲西町、北区に東雲東町があります。もとは堺市向井町字北庄の一部。大正 11 年(1922)東雲町となり、昭和 25 年(1950)に東西に分かれました。阪和線を横断する地下通路と東雲公園があります。

東区

東区は、もとの南八下村・日置荘町・登美丘町から成立しています。登美丘町は、昭和 25 年野田村と大草村が合併して成立。町名は、地域住民からの懸賞募集によるものです。東区のホームページによると「合併委員会が新しい町名を募集したところ野田村字西野の木村亀次さんの名づけた登美丘町に決定しました。(中略)丘陵地の景色の良い所で、この丘に登ると眺めも心も美しくなるとの意味がこめられていました」とのことです。

角川版の地名大辞典で、野田村は「明治 22 年～昭和 25 年。はじめ丹南郡、明治 29 年からは南河内郡に所属。北野田・南野田・高松・丈六・西野新田(のち西野)の 5ヶ村が合併して成立」しました。同じく大草村は「関茶屋新田・高松新田・草尾新田の 3カ村が合併して成立。村名は、当地域が近世の開拓前において大野の芝と総称されていたこと、また合併 3カ村のうち草尾新田が最も大きい村であったことから、住民の希望により名づけた。昭和 6 年頃草尾から起立した大美野を加え 4 大字となる。」野田村に高松があるので、高松新田は中茶屋と改称しました。

草尾は、元禄 11 年(1698)から武蔵国の浅田喜兵衛・太田新蔵が開拓を始め、同 12 年踞尾(つくの)村の北村六右衛門、草部村の大塚吉右衛門があとをつぎ、同 15 年(1702)完成。新田開拓者である二人の居村の草部・踞尾両村の 1 字ずつをとって草尾と名づけました。江戸時代は煙草が名産品でした。

大美野は新しくつくられたまちです。昭和 6 年(1931)頃完成、もとは大草村草尾の一部。関西土地(のち関西不動産)という民間会社が、大がかりな宅地開発を計画し、社員をヨーロッパにあってまちづくりを視察させ、噴水を中心とした放射状の街路、平均面積 100 坪、生け垣に囲まれた広い庭のある住宅が並んでいます。代替わりで土地が売られてそのあとに 6～8 軒の住宅がたてられることがあります。大邸宅、建築家が建てたと思われる住宅も残っています。大美野という地名も、懸賞募集でつけられた名前、大草村と野田村の「大」と「野」を美しく結ぶという意味です。

中区

八田寺(はんだいじ):「現在の堺市八田寺町、堀上町、毛穴村の東に位置し、村域は丘陵で占められる。もと行基創建と伝える蜂田(はちた)寺=華林(けいりん)寺があったことにちなみ、蜂田寺村と記したという」大鳥郡蜂田郷内に成立した荘園で、現在の八田寺町・八田北町・八田南之町・八田西町・東八田・平井あたり。八田庄とも書かれた。地元の方は、行基さんが生まれたのもここではないかとおっしゃっていました。

土師:実際に土師氏が住んだことによります。「奈良期~平安期に見える郷名。土師氏には四腹(土師・大枝・菅原・秋篠)あるが、大枝朝臣の姓を賜った「毛受腹」の土師氏が、当郷を本貫としていた百舌鳥土師氏にあたると思われる。古代の郷域は、現在の土師町・土塔町・百舌鳥陵南町・百舌鳥梅町などの一帯と推定できる。」とあります。

津久野:もと踞尾と書かれていました。豊臣秀吉が踞尾村の納める年貢から西本願寺(堺別院)280石、堺の16寺[天神常楽寺●220石、南宗寺110石、向泉寺●90石、大寺(念仏寺)●80石、禅通寺●(少林寺に合併)60石、北十万(悲田院)50石、旭蓮社40石、海会寺30石、大安寺29石あまり、顕本寺27石、経王寺26石、極楽寺20石、金光寺●(宝珠院に合併、藤のお寺として有名)19石、引接寺●(廃絶、正法寺に合併)10石あまり、光明院●(荒廃)18石、櫛笥寺1石あまり、(●は現在廃寺)]を与えました。寺社領分は合計1110石となり、踞尾村は大きな村だったことがわかります。これは江戸時代にも引き継がれ、このほかに旗本小出氏(陶器藩主)の領地もありました。農業のほか、絞り油・木綿織り・晒し業もさかんだった豊かな村です。

南区

南区の魅力のひとつは、静かで木々の緑に満ちた公園と緑道です。泉北ニュータウンは、大阪府が計画的に作ったまちなので、計画的に、緑道や広い公園がつけられました。

宮山台:西南部の山林に境内をもつ多治速比売神社にちなむ(まち開きは昭和42年・1967 泉北ニュータウンで最初)

高倉台:高蔵寺があり、周辺地域が高蔵寺と呼ばれていた(同 昭和47年・1972)

桃山台:造成前、丘陵一帯に桃が栽培されていたことから(同 同年)

原山台:地区内の地名からとった。造成前は山林地帯(同 昭和49年・1974)

新檜尾台:檜尾は、現光明池地区の大半をしめていた字の名。現在も同地区の東と西北にある(同 昭和54年・1979)などです。

鎌倉時代以来の古い歴史をもつ南区の旧村では、和田・釜室・富蔵・大森・泉田中・畑など。大森は、江戸時代後半下総(しもうさ=千葉県北部)国の関宿(せきやど)藩久世氏がおさめていて、和田谷(みぎただに)6ヶ村(上別所・下別所・上・檜尾・大森・野々井)のひとつ。明治22年美木多村の大字となり、昭和31年には福泉町になっています。

和田:みきたでは読みにくいので、字を変えたようです。

富蔵:14世紀には見える地名で、江戸時代には太平寺・大庭寺などと大庭寺(のちに伯太)藩となり、上神谷(にわだに)の妙見さんとして有名な日蓮宗感応寺があります。

旧村の地名に多い「蔵」「室」は、百舌鳥古墳群が作られる5世紀中頃から、現在の泉北ニュータウン一帯に、朝鮮半島から須恵器(硬い素焼きの灰色の土器)を焼く技術を持つ人たちが住みつき、須恵器を焼く窯や保存用の倉庫がつけられたことによるこのことです。鎌倉時代~戦国時代、若松荘(わかまつのしょう)という皇族のもつ荘園があり、京都の臨川寺に寄進されました。若松荘は、現在の太平寺・大庭寺・豊田・梅・若松台・片蔵・泉田中・富蔵・釜室・逆瀬川・畑・鉢ヶ峰付近です。

西区

「西区の西部は大阪湾に面しており、臨海部には重化学工業など大規模な工場が集まり、野球場・芝生ひろばなどのあるみなと堺グリーンひろばや堺泉北港、浜寺公園と泉北臨海緑地に挟まれた浜寺水路、石津川や百済川等の河川、鶴田池や万崎池等の多数のため池など、多様な水辺空間を有しています」とあります。

角川日本地名大辞典 27『大阪府』によると、鳳の名前が頭につく東西南北中町は、もとは大鳥と書かれ、奈良時代～平安時代には成立、奈良時代（8世紀）の資料に、地名の由来と考えられる大鳥連（むらじ）という豪族の名前が出ています。鎌倉時代には大鳥荘という荘園になり、皇室関係者が所有者だったようです。江戸時代から明治22年（1889）まで大鳥村、堺の町の周辺で、堺奉行の領地でした。木綿作りや紺染め・綿糸・綿織物などがさかん。明治22年の市町村制で、大鳥・北王子・長承寺・野代の4ヶ村が合併して鳳村に。大鳥神社などで有名な大鳥をとり、吉字の鳳をあてました。奈良時代の高僧行基が大鳥大社のなかに神鳳寺というお寺を建てたことも関係があるかもしれません。大正9年（1920）鳳町、昭和4年今のJR阪和線開通、同17年堺市に。同18年鳳各町や浜寺船尾町、下田町になりました。

美原区

美原区は、もとは美原町。小寺・大饗・菩提は、もとは河内国八上郡のうち。はじめ幕府領、17世紀の終わりに武蔵国川越藩秋元氏の領地となる。昭和33年、一部は堺市、一部は美原町となる。平成17年（2005）2月1日堺市と合併、平成18年（2006）4月1日、堺市は政令指定市となり、美原区となる。

小寺：古くは古寺と書いた。地名は、当地に明徳年間（14世紀終わり、南北朝時代）に焼失した長和寺というお寺があったことによるという。現在も、高野山真言宗平松寺、浄土真宗本派大円寺、時宗照林寺、融通念仏宗西方寺がある。

菩提：8世紀（奈良時代）光明皇后によって、河内国分尼寺が創建されたという伝承があり、お寺を開いた天竺（インド）僧菩提遷那（ぼだいせん）にちなんだ地名という。

大饗：8世紀中頃（奈良時代）、称徳天皇が紀伊の国に行かれた帰り道で、当地で饗宴が行われたのが、地名のおこりという。楠木氏の一族和田氏の本貫地。江戸時代、東大饗村、西大饗村に分かれていたが、明治8年、合併して大饗村。同22年南八下村の大字となる。昭和33年もとの東大饗村は、美原町大饗となった。

堺市の拡大

1889年（明治22年）	環濠内が堺市になる＝旧市内と呼ばれる地域	
1894年（明治27年）	向井村（北庄村＋中筋村）七道	
1920年（大正9年）	湊町・向井町	
1925年（大正14年）	舳松村	
1926年（大正15・昭和元年）	三宝村	
1938年（昭和13年）	五箇荘村・金岡村・百舌鳥村・神石村	
1942年（昭和17年）	浜寺村・踞尾村・鳳町・八田荘村・深井村・東百舌鳥村	
1957年（昭和32年）	北八下村	
1958年（昭和33年）	南八下村・日置荘町	
1959年（昭和34年）	泉ヶ丘町	
1961年（昭和36年）	福泉町	
1962年（昭和37年）	登美丘町	
	2005年（平成17年）	美原町

参考文献 角川書店『角川日本地名大辞典 27 大阪府』1983（昭和58）年
平凡社『大阪の地名Ⅱ（日本歴史地名大系 28）』1986年（昭和61）年
堺市のHP『堺区 地名の由来が知りたいんだけど』平凡社『大阪の地名Ⅱ』